

# 2023鈴鹿サンデーロードレース第1戦 RACE REPORT

## ■開催概要

- シリーズ名称 : 2023 鈴鹿サンデーロードレース第1戦
- 主催 : ホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキット
- 会場 : 鈴鹿サーキット フルコース (5.821km)
- 参加 : 総参加台数/224台
 

CBR250R Dream Cup	25台
CBR250RR Dream Cup	20台
インターJ-GP3	10台 (内、HRC NSF250R Challenge 2台)
ナショナルJ-GP3	16台 (内、HRC NSF250R Challenge 12台)
インターJP250	5台
ナショナルJP250	12台
ナショナルST600	55台
インターST600	11台
ナショナルST1000	29台
インターJSB1000	27台
インターST1000	14台
- 開催日 : 2023年4月8日(土)、9日(日)
- 天候/路面 : (8日)曇後雨後晴れ/ドライ・ウェット (9日)晴れ/ドライ

## ★次回レース予定

2023 鈴鹿サンデーロードレース第2戦

■開催日/2023年5月20日(土)・21日(日)

■会場/鈴鹿サーキットフルコース(5.821km)

■開催クラス/ インターJSB1000、インター/ナショナルST1000・ST600・J-GP3・JP250、ST600R(Revival)、  
CBR250R Dream Cup、CBR250RR Dream Cup

■主催/ホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキット



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。  
[https://www.suzukacircuit.jp/result\\_s/](https://www.suzukacircuit.jp/result_s/)



★レース写真は、バトルファクトリー様のHPで  
ご購入いただけます。  
<http://www.battle.co.jp/>



4月8日(土)にはCBR250R Dream Cup・CBR250RR Dream Cupクラスの決勝レースが行われた

# 2023鈴鹿サンデーロードレースがいよいよ開幕! 各カテゴリーで、ひと時も目が離せないバトルが 展開された!!

全4戦がフルコースを舞台に開催されることがアナウンスされ、期待が高まっていた2023年シーズンの鈴鹿サンデーロードレースがついに開幕した。

今回は4月8日(土)に全カテゴリーの公式予選とCBR250R Dream CupおよびCBR250RR Dream Cupの決勝レースが行われ、9日(日)にそれら以外の決勝レースが開催された2DAYS大会。CBR250R Dream Cupに関しては昨年までのビギナークラスとエキスパートクラスが統合され、レース名称も「CBR250R Dream Cup」に統一された。鈴鹿サンデーロードレース全大会で、CBR250R Dream CupおよびCBR250RR Dream Cupの2クラスが土曜日に決勝レースを行う。今回は特にCBR250R Dream Cupにおいてワンメイクならではの接戦が繰り広げられる展開となった。

もっとも多くの参戦台数を集めたのはナショナルST600。55台のエントリーがあったため、A・Bの2グループに分けて行われた公式予選から激しいタイムアタック合戦が展開された。昨年このカテゴリーのチャンピオンに輝き、国際ライセンスを獲得した塚原溪介は今シーズンよりインターST600にステップアップ。そのインターST600でも国際ライセンスホルダーたちが性能差の少ないマシンを操ってバトルを披露する姿が見られた。

その他、唯一のGPフォーミュラ(レース専用マシン)カテゴリーであるインター/ナショナルJ-GP3に全日本選手権参戦ライダーや全日本選手権を由来とする若手育成チームがエントリーしたことも注目を集めた。また、インターJSB1000/ST1000には鈴鹿8耐のテストを兼ねたチームも参戦。7日(金)の特別スポーツ走行から決勝レースまでの3日間を通じてライダーは走行を重ねながら様々なマシンセッティングを試したりと、鈴鹿8耐も視野に入れ、着々と準備を進めていたようだ。

なお、次戦5月20日(土)・21日(日)の第2戦では鈴鹿8耐の選考レース「トライアウトFinalステージ」も開催される。上位最大10チームに“コカ・コーラ”鈴鹿8時間耐久ロードレース第44回大会への出場権が与えられるこのレースが行われる鈴鹿サンデー第2戦にも是非ご注目いただきたい。



今シーズンから全戦がフルコース大会に。それもあってか、ナショナルST600には55台と多くのエントリーが参戦することになった。

## ■CBR250R Dream Cup

ポールポジションスタートの堀絢仁が良いクラッチミートを披露。それに2番グリッドスタートの大田雅裕が続く。大田と3番グリッドスタートの柴田真優姫はオープニングラップから激しいバトルを展開。その2台が集団を抜け出すことに成功する。2周目になると4番グリッドスタートの寺田愛基が柴田と大田に接近。シケイン進入で大田がトップに立つが、すぐに寺田が大田をパスし、さらに柴田が先頭に立つ。大田がそこから若干遅れ、寺田、柴田、大田のオーダーで3周目を終了。大田が再びトップツーに追い付くと、まず柴田をパスし、6周目のシケインでさらに寺田をもパスする。ファイナルラップの1コーナーで柴田が大田の前に出たが、130R進入で柴田をパスした大田が見事トップチェッカーを受けた。



CBR250R Dream Cup表彰式 (優勝：大田雅裕、2位：柴田真優姫、3位：寺田愛基)

## ■CBR250RR Dream Cup

ポールポジションを獲得した中村敬司が頭ひとつ抜け出して1コーナーへ。それに田中直哉、岩月寿樹とグリッドのオーダー通りに続く。8番グリッドスタートの仲泉霞皇が岩月をパスして3番手に。中村、田中、仲泉、岩月、4番グリッドスタートの細谷匠、6番グリッドスタートの福井宏至のオーダーでオープニングラップを終了する。田中がペースアップして中村の背後に接近。2周目には岩月が仲泉をパスし返すことに成功する。田中のマシンにトラブルが発生したことにより、中村が単独トップに。3周目には仲泉が岩月をパスし、中村に続く2番手に浮上。5周目の2コーナーでその仲泉がミスし、岩月が単独2番手となる。中村が3秒188ものアドバンテージを築いて優勝。2位は岩月。仲泉が3位入賞を果たした。



CBR250RR Dream Cup表彰式 (優勝：中村敬司、2位：岩月寿樹、3位：仲泉霞皇)

■インター／ナショナルJP250

ポールポジションからスタートした中川涼がホールショットを奪う。それに続くのは3番グリッドスタートの南博之。2番グリッドスタートの福井宏至は出遅れる。中川と南はオープニングラップから激しいバトルを展開するが、スプーンカーブあたりまでに中川が南を若干引き離すことに成功。しかし、福井がシケインで一気にトップに立つ。その福井、藤田武蔵、中川、南、三浦雄一、大窪証文のオーダーでオープニングラップを終了。福井は3周目に集団を抜け出し始める。中川、藤田、南が2番手グループを形成するが、4周目の逆バンク手前で中川が転倒。船田俊希が藤田と南に接近する。5周目になるとその3台が福井に迫り、トップ集団は4台での争いに。終盤にペースアップした福井が総合優勝を果たした。



インターJP250表彰式(優勝:船田俊希、2位:辻本範行、3位:隣淳二)



ナショナルJP250表彰式(優勝:福井宏至、2位:南博之、3位:藤田武蔵)



ナショナルJP250車両銘柄賞表彰式(Honda賞:福井宏至、ヤマハ賞:大窪証文、カワサキ賞:清水善久)

■インター／ナショナルJ-GP3／  
HRC NSF250R Challenge

ポールポジションスタートの村田憲彦の横から2番グリッドスタートの仲村瑛冬が飛び出していく。その仲村、3番グリッドスタートの川瀬啓一郎、そして村田のオーダーで1コーナーへ。村田、川瀬、仲村、6番グリッドスタートの松田基成、10番グリッドスタートの中谷健心、11番グリッドスタートの豊田哲慎のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。豊田が中谷、松田、仲村をパスして3番手に。トップグループは周回ごとに順位を入れ替える激しいバトルを展開する。5周目になると松田が一時的に頭ひとつ抜け出すことに成功するが、終盤に松田、中嶋、村田は再びテールtoノーズの状態に。中嶋が9周目に転倒。松田、中谷、村田のオーダーでファイナルラップに突入すると、松田がトップチェッカーを受けた。



インターJ-GP3表彰式(優勝:松田基成、2位:村田憲彦、3位:仲村瑛冬)



ナショナルJ-GP3表彰式(優勝:中谷健心、2位:豊田哲慎、3位:徳田翔)

### ■インターJSB1000／インターST1000

加藤高史、山中将基とグリッドのオーダー通りに1コーナーへと飛び込んでいく。それに続くのは4番グリッドスタートの羽根巧。3番グリッドスタートの川名拳豊がオープニングラップで転倒する。山中、羽根、加藤のオーダーでオープニングラップを帰ってくると、その3台がトップグループを形成。その後方では中島陽向、澤村元章、可部谷雄矢、遠藤晃慶が激しく4番手の座を争う。トップ集団では山中が羽根と加藤を引き離すことに成功。羽根、加藤はその後もテールtoノーズのバトルを繰り返す。次第に山中、加藤、羽根はそれぞれ単独走行状態となるが、加藤がファイナルラップで山中に追い付くとこれをパス。加藤が大逆転でポールtoウィン飾った。インターST1000では可部谷がクラスウィナーとなった。



インターJSB1000表彰式 (優勝:加藤高史、2位:山中将基、3位:羽根巧)



インターST1000表彰式 (優勝:可部谷雄矢、2位:澤村元章、3位:中島元気)

### ■ナショナルST1000

ポールポジションスタートの村田司と2番グリッドスタートの辻尾裕司が横並び状態で1コーナーへ。しかしオープニングラップをトップで帰ってきたのは5番グリッドスタートの池田寛之。それに9番グリッドスタートの中尾泰三、3番グリッドスタートの樽見隼、村田、8番グリッドスタートの小寺正明、辻尾と続く。池田と中尾はテールtoノーズのバトルを展開。その2台に樽見を加えた3台がトップグループを形成する。3周目のスプーンカーブで中尾が池田をパスしてトップに。4周目の1コーナーでオーバーランしかけた池田を樽見がパスする。5周目のヘアピンで樽見がトップに。6周目のヘアピンでは中尾が樽見の前に出る。その2台はその後も激しいバトルを展開した末に中尾がトップチェッカーを受けた。



ナショナルST1000表彰式 (優勝:中尾泰三、2位:村田司、3位:樽見隼)

### ■インターST600

2番グリッドスタートの塚原溪介が出遅れる。ポールポジションスタートの鈴木悠大と3番グリッドスタートの村瀬豊が横並びの状態です。村瀬がS字でトップに。村瀬、鈴木、塚原のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。2周目になると村瀬が一時的に後続を引き離し、単独トップに。その若干後方で鈴木と塚原が2番手グループを形成する。再び村瀬のテールを捉えた鈴木が2周目のシケイン進入でトップに。塚原も村瀬をパスすると、鈴木、塚原、村瀬の3台がトップの座を争う。塚原が5周目の130Rで鈴木をパスするが、鈴木がすぐにトップに。塚原は7周目でも鈴木をパスしてトップに立つ。鈴木が9周目に転倒。インタークラスにステップアップしたばかりの塚原が今シーズン初戦で優勝を飾った。



インターST600表彰式(優勝:塚原溪介、2位:村瀬豊、3位:鈴木慎吾)

### ■ナショナルST600

44台フルグリッドで開催されたこのカテゴリーの決勝レース。2番グリッドスタートの大中真次が良いクラッチミートを披露してホールショットをゲット。それにポールポジションスタートの岩本匠生、3番グリッドスタートの中堀拓己と続く。大中、岩本、中堀はオープニングラップから後続を引き離すことに成功。岩本はシケインで大中をパス。中堀も130Rで大中を抜くと、岩本、中堀、大中のオーダーでオープニングラップを終了する。テールtoノーズの状態でも周回を重ねる岩本と中堀の後方で平城雄飛が大中のテールを捉え、これをパスすることに成功。大中は川本宜論の先行をも許す。トップソーでは終盤に中堀が岩本に接近するが、岩本がトップの座を守ってポールtoウィン。中堀が2位チェッカーを受けた。



ナショナルST600表彰式(優勝:岩本匠生、2位:中堀拓己、3位:川本宜論)

**Voice  
of  
Pick up  
Riders**  
-SUNDAY EDITION-  
この日、キラリと光った  
ライダーに一问一答

この日、キラリと光ったライダーに一问一答  
「Voice of Pick up Rider -SUNDAY EDITION-」

CBR250RR Dream Cupで優勝した

**中村 敬司** 選手

(TTS速心+keizy38+向山鉄工/Honda CBR250RR)



**Q. 公式予選ではコンマ122秒の僅差でしたが、見事トップタイムをマークしましたね。**

A. 実はこのマシン、新車なんです。乗り方がよくわかっていなかったのですが、先週のスポーツ走行の時、感触が良く、これはいけると感じました。大きな差を築くことはできませんでしたが、ポールポジションを獲得できて良かったです。

**Q. 決勝レースのスタートはレッドシグナルの時間が長かったですね。**

A. 長かったです。でも自分なりにうまくいったと思います。今のマシンは便利な機能がいろいろついているから、それもあってうまくいきました。その後も順調に走ることができ、ポールtoウィンを飾れました。

**Q. 今シーズンはどのような参戦予定ですか。**

A. 鈴鹿サンデー第2戦はインターJSB1000とインターST600に出る予定です。今回、シーズン最初のレースで無事勝てたので次回も良い成績を残したいです。